

パトリック宮崎翔太郎助祭 司祭候補者認定式

2017年2月19日 カテドラルの晩の祈りについて

[\[聖書朗読箇所\]](#)

説教

今日は、2月19日、年間第7主日です。

この晩の祈りの中で、助祭 司祭候補者認定式が行われます。式に先立って、今日の福音、そして朗読から、わたくしが感じていますことを、少し申し上げたいと思います。

イエスは言われました。

「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈いなさい」

イエス・キリストの教えは、「敵への愛」であるということ、ほとんど誰でも知っていると思います。彼は、そのように教え、自分の教えを実行しました。そして、わたしたちも、そのようにするようにと命じています。

「天の父が完全であるように、あなたがたも完全な者となりなさい」

そのように言われても、なかなか、そのようにはいかないという気持ちを持っています。もっとも、「愛する」ということは、「その人を好きになりなさい」ということではありませんので、たとえ、「嫌だ」とこちらが感じる場合でも、その人を憎んだり、その人の上に災いを望んだりはしない、そういうことはできると思います。

旧約聖書のレビ記でも、

「自分自身を愛するように、隣人を愛しなさい」と教え、

「民の人々に恨みを抱いてはならない」と教えています。

「憎んではならない」、「恨みを抱いてはならない」と言っています。それは、はっきりとした、旧約 新約聖書を通しての一貫した教えであります。

「憎んでいるか、いないか」、「恨みを抱いているか、いないか」、それを、誰がどのように判定するか。ゆるしの秘跡を受けるときなど、迷う点ですが、そのような気持ちを全然持たないということは、人間として不可能ではないかと、わたくしは思います。しかし、そのような心の動きが自分にあることを認め、そして、そのような気持ちに捉えられないようにする努力はできますし、「そのようにできます

ように」と祈らなければならないと思います。

昨年11月20日まで、『いつくしみの特別聖年』でした。

「天の父がいつくしみ深い者であるから、あなたがたもいつくしみ深い者でありなさい」

という教えを、わたしたちは一年がかりで、更に深く学びました。

「人にいつくしみ深い者であれ」ということですが、その前に、どんなにわたしたちは、他の人から「いつくしみ」を被っている者であるかということ、この機会に、思い起こす必要がありました。自分の人生を振り返ると、いろいろな人から被った「恩(おん)」は、後になってから気付く。そのときは、あまりわからない。あるいは、全然わからない。後で、「あのとき、あの人はこのようにしてくれたのだ」と、両親をはじめ、いろいろな人から受けた「いつくしみ深い行い」を思い起こします。わたしたちは、いろいろな人から、「いつくしみ」を被っている。その「いつくしみ」は、考えてみれば、信仰の上から言えば、神様から来たものでありましよう。

「いつくしみ深い者でありなさい」ということは、難しいことではありますが、いつくしみ深くしていただいた、自分の過去を振り返りながら、「感謝を込めて、少しでも、いつくしみ深く生きること」は、十分に可能であると思います。そして、その「いつくしみ」というものは、聖霊の働きによるものです。神様は目に見えないし、聖霊も目に見えませんが、わたしたちが日々出会う人は、目に見える、毎日具体的な場面でお会いする人々です。その人々に、聖霊が働いているということを感じ、感謝を献げたいと思います。

今日、認定式を受ける神学生、宮崎翔太郎さんは、これから認定式、更に、朗読奉仕者、祭壇奉仕者の選任式を受ける、更に助祭の叙階を受ける、その後でやっと司祭になる。でも、司祭になれば、それは新しい出発点ですので、それから長い司祭の奉仕の日々が続く。そして、自分が信じたことを教え、教えたことを実行するように求められています。

自分が実行できていないことを人に言うということは、大変辛いものです。しかし、できていないからと、言わないわけにはいけません。そのような思いを、全ての司祭は抱きながら、それでも、イエス・キリストを通してわたしたちに与えられた神の恵みを信じ、そして、出会う人々に神のいつくしみを現し、伝えていくことが、わたしたちの務めです。

今日、宮崎さんのためにだけ、これだけの人が集まってお祈りしてくれるのですから、生涯忘れないで欲しい。困ったとき、行き詰まったとき、このことを思い出し

ていただきたいと思います。

聖書朗読箇所

福音朗読　　マタイによる福音書　5:38-48

(福音本文)

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。

」

[説教へ戻る](#)